

今日の説教のポイント<マタイによる福音書 21 章 28～32 節>

注目すべきは2点。「考え直す」ことと、罪人たちが信じたこと。

①比較されているのは「罪人」と「祭司長や民の長老たち」

イエス様が「あなたたち」(28, 31, 32)に例え話を用いて厳しく問いかけておられます。「あなたたち」とは「祭司長や民の律法学者たち」(23)で、聖書の教えを民衆に教える立場にある人々ですが、イエス様が神からの方であることを認めず死に追いやった人々です。一方、イエス様が彼らと比較された「徴税人や娼婦たち」(31, 32)は、当時のユダヤ社会では神様から良しとはされない中にあり続けていて、他人だけでなく自分自身も自分のことを「罪人」だと認めているような人々でした。

② 罪人が信じ、受け入れ、変わったのを見ても信じない罪の大きさ

イエス様は、この両者のうち祭司長や民の長老たちを厳しく問われたのです。その理由は正しく生きているかどうかということより、「考え直すことをしたか」(29, 32)にあると言えるでしょう。しかも、ここで重要なのは、主イエスが最後に「あなたたちはそれを見ても、後で考え直して彼を信じようとしなかった」(32)と言われていることです。「それを見ても」とは、徴税人や娼婦たちがイエス様に出会って、自分たちを受け入れて下さる神様の憐みの深さを知り、バプテスマを受けて新たな道を歩み出した(「義の道」(32)とはこのこと)のを見ても、ということ。ここで私たちは、徴税人や娼婦たちがイエス様と出会ってどんな喜びに与ったかを考えなければならないと思います。

③大事ななのは、主を信じて歩む者になろう、とどこかで考え直すこと！

徴税人マタイは罪の仕事をしている真っ最中にイエス様から、「**私に従いなさい**」(9:9)と呼びかけられました。「自分のような者を傍に置く?!」考えられない「赦しと受け入れ」の経験でした。マタイはすぐにイエス様に従ったのです。姦淫の罪の現場を押さえられた女は、イエス様の「あなたたちの中で罪を犯したことのない者が、まず、この女に石を投げなさい」(ヨハネ福音書 8:7)という言葉に救われました。

私達も問われます、この主イエスに神様の御旨を見ないで、他のどんな道を行くというのか、と。どこかで「考え直す」(方向転換する)、神様はそのことを私達にも願っておられるのです！